

キユーネナナーゲル

豪の定温専門フォワーダーを買収

■同社プレスリリース 2・2

スイスの大手ロジスティクス業者であるキユーネナナーゲルは、生鮮品の定温輸送に特化した豪州のフォワーダー、リンク・ロジスティクス・インターナショナルを買収した。

リンク社は一九九八年に創業した未上場のフォワーダーで、メルボルンに本社を置く。従業員数は三三三人。主に食肉や果物、野菜などを取り扱い、付加価値サービスとして品質管理や商品の等級付け、冷却ラベル貼付なども行う。

仏ノルベル・ダントレサングル

英でマツダ、ホンダと契約更新

■同社プレスリリース 2・6など

フランスの大手ロジスティクス業者であるノルベル・ダントレサングルは英国で、マツダおよびホンダとロジスティクス業務に関する契約をそれぞれ三年間更新した。

ノルベル・ダントレサングルは、マツダがケント州ステープルハーストに持つ配送センターから補修部品や自動車の付属品などを集荷。自社の積み合わせ輸送のネットワークを活用して英国約一七〇カ所のディーラー

に翌朝八時までに配達する。

加えて、独自に開発した「SHARP (出荷ハンドリングとレポートプログラム)」の技術を提供し、マツダがディーラーからの注文をシステム上で処理できるようにしているという。

ホンダからは、英国の組み立て工場の生産ラインに部品を供給する調達物流を受託している。ノルベル・ダントレサングルはサザンプトン港で年間六〇〇本のコンテナを受け取り、ホンダの組み立て工場から一マイル(一・六キロ)の場所にあるスインドンのホンダ専用物流センターに搬入して保管。ラベルの貼付作業やバーコードによる部品の追跡、部品の廃棄処理なども行う。加えて、英国内のサプライヤー四〇社から半製品を集荷する。

蘭CEVAロジスティクス

北米発海上混載サービスを強化

■同社プレスリリース 2・13

オランダの3PL企業であるCEVAロジスティクスは、米国ヒューストン発シンガポールおよびアラブ首長国連邦ジュベール・アリ (Jebel Ali) 向けのLCR (Less Than Container Load: コンテナ一本に満たない混載貨物) の海上混載サービスを開設した。

シンガポール向けでは、テキサス州

ダラス、ルイジアナ州ニューオーリンズの地域で集めた貨物をヒューストン港で船積みし、ロサンゼルスを経由して目的地に輸送する。輸送日数は約四〇日。シンガポールからはアジアの一〇〇を超える地点への輸送が可能。ジュベール・アリ向けについては、カリフォルニア州ロサンゼルスやサンフランシスコ、ダラス、ニューオーリンズで集荷した貨物をヒューストン港で船積みする。輸送日数は約三四日。これまではニューヨーク経由で輸送していたが、直行便に改め、輸送時間を大幅に短縮する。

仏ジェフコ

親会社ブジョーが一部株式を売却

■ロイター 2・15など

フランスのブジョーシトロエングループ (PSA) は、物流子会社のジェフコの株式を含め資産の一部を売却すると発表した。これによって一五億ユーロ (一六二〇億円) の資金調達を見込んでいる。PSAのフィリップ・バランCEO (最高経営責任者) は投資家に対し、「どれだけ資産を売却するのは現時点では決めていない。社内に専門委員会を作って議論する」と述べている。

欧州のロジスティクス業界は、この発表を冷静に受け止めたようだ。PSAは主戦場である欧州の小型車市

場でこの数年、苦戦を強いられてきたためだ。

PSAの発表によると、ジェフコの二〇一一年の売上高は前年比十一%増の三七億八〇〇万ユーロ (四〇八二億四〇〇万円)、営業利益は二〇%増の二億二三〇〇万ユーロ。営業利益率は五・九%とロジスティクス業界では高水準となっている。ジェフコの売上高の約六割はPSA向けであることを差し引く必要があるが、多くの同業他社が苦戦を強いられる中では好成績を上げたといえる。

PSAがジェフコの今後についてどのような方針を持っているかは、まだはつきりとは見えていない。バランCEOは「ジェフコのロジスティクス機能は、PSAの経営戦略にとって重要な意味を持っている」とも語っている。

TNTがUPSの買収提案を拒否

■同社プレスリリース 2・17など

オランダのTNTは、米UPSからの買収提案を拒絶した。UPSは買収額として一株当たり九ユーロ、総額四九億ユーロ (五二九二億円) を提示していたが、TNTは「役員会が注意深く検討し、その理由を精査し、関係者全体のメリットとリスクを

勘案した」結果、拒否することにしたと発表している。UPSのプレスリリースによると、一株当たり九ユーロという金額は、TNTとの話し合いを経て、当初よりも増額したものであったという。

今回の交渉は物別れに終わったが、ロイター通信の十七日付けの報道によると、TNTの広報担当者は「われわれはこの（UPSとの）話し合いを進めることまで拒否しているわけではなく、交渉はまだ続いている」と語っている。

その後、UPSのライバルであるフェデックスもTNTに買収を仕掛けるという観測が流れたこともあり、TNTの株価はUPSの買収提案が表面化する前の六ユーロ台から、一気に一〇ユーロ台まで跳ね上がった。しかし、ロイター通信はフェデックスはTNTの買収には動かない、という見通しを報じている。

DBシエンカー スウェーデンで新規荷主獲得

■同社プレスリリース 2・22

ドイツ鉄道傘下の3PL企業であるDBシエンカー・ロジスティクスは、作業着の大手メーカー、クウインテットとスウェーデンでSCM業務に関する新規契約を結んだ。DBシエンカーはヨーテボリに持つ延べ床

面積二万五〇〇〇平方メートルの汎用センターを使い、クウインテットの業務を行う。

クウインテットの注文件数は年間約二〇〇万件。そのピッキング回数は一五〇〇万回に上るといふ。DBシエンカーは今回の新規契約締結に伴い、新たに四〇人を雇用する見込み。

英ウインカントン シエブロンと二件の新規契約

■同社プレスリリース 2・23

英国の大手ロジスティクス業者であるウインカントンは、米石油大手のシエブロンとSCM業務に関して二件の契約を結んだ。契約期間はいずれも三年間。

一件はシエブロン傘下のシエブロン・マリントンの契約。ウインカントンは潤滑油を英国の船舶産業の荷主に供給する。シエブロンから送られてきた発注書に基づき、潤滑油を荷主まで輸送し、実際に潤滑油を輸送する小型船も管理する。大口の潤滑油についてはリーズの生産工場から直接輸送し、梱包済みの小口の潤滑油はドンカスター（Doncaster）の施設から輸送する。また、ベルギーから英国に輸入される梱包済みの潤滑油の荷受け業務も行う。

二件目の契約は、シエブロン傘下のシエブロン・ルブリカンツと結ん

だ。年間七四〇リットルの小売業者向けの潤滑油を輸送する。顧客からの注文件数は年間二三〇〇件前後となる見込み。

パナルピナ

新CFOと米法人の新CEO発表

■同社プレスリリース 2・24

スイスの大手フォワードであるパナルピナは、同社CFO（最高財務責任者）にロバート・エリニ氏、米国人のCEOにフェルディナント・カート氏が就任したと発表した。

エリニ氏は、スイスの同業大手であるキューネナナゲルで過去二〇年近くにわたり財務関連部門で経験を積み、パナルピナ入社前は「企業コントロール部門」のトップを務めていた。カート氏もまた、キューネナナゲルからパナルピナに転じ、フォワードディング業界で計三〇年間のキャリアを持っている。

アジリティ

ドイツメッセと契約更新

■同社プレスリリース 2・27

クウエートに本社を置くロジスティクス業者であるアジリティは、ドイツの会議・展示場運営大手、ドイツメッセがハノーバーに持つ展示会場の公式3PL業者選ばれた。アジリ

ティの会議・催し物部門は、出展者やその委託先のロジスティクス業務や物品の出荷サービスを請け負う。

具体的には、通関業務や展示会場に必要な資材の運搬、補給商品の一時保管、在庫の補充業務などを行う。アジリティとドイツメッセとの取引は一九九四年にさかのぼる。

ドイツポストが銀行業務から撤退 ロジスティクスに経営資源を集中

■同社プレスリリース 2・28

ドイツポストDHLは、銀行業務からの撤退を果たした。ドイツ銀行との間で交換可能な債権が満期になったのに伴い、傘下のポストバンクの株式二七・四％をドイツ銀行に譲渡した。また、ポストバンクの持ち株の残り十二・一％を売却するオプション取引も行う。ドイツポストDHLは銀行業務からの撤退により、郵便事業と国際宅配便を柱としたロジスティクス事業に経営資源を集中する体制を整えることになる。

ポストバンク株の譲渡は、二〇〇九年一月に両社間で決められた三段階の譲渡計画に沿ったもの。当初の計画によると、ドイツポストDHLは銀行部門の売却で総額四九億ユーロ（五二九二億円）の資金調達する予定だが、最終的な譲渡金額は第1四半期に発表する。



換算レート：1ユーロ＝108円